入院中にも
学べる場所があります

教職員のための入院児童生徒支援ガイド

山梨県内には、現在、病院内に設置された小・中学校の分校や、病院に併設された特別支援学校が、7校あります。小・中学生が、下記の5病院に入院することになった場合には、保護者に学べる場所があることを伝えてください。

■ 中央市立玉穂南小学校下河東分校 ■ 中央市立玉穂中学校下河東分校	（山梨大学医学部附属病院内）	055-（274）-1244
■ 甲府市立山城小学校分校 ■ 甲府市立城南中学校分校	（市立甲府病院内）	055-（244）-1666
■ 富士吉田市立吉田小学校分校	（富士吉田市立病院内）	0555-（20）-1361
■ 山梨県立富士見支援学校	（県立中央病院併設）	055-（252）-3133
■ 山梨県立富士見支援学校旭分校	（県立北病院併設）	0551-（22）-7144

山梨県教育委員会　令和7年3月

入院中の学びについて　Q&A

入院している子供たち

近年、医療の進歩に伴い、入院の短期化・頻回化が進んでいます。しかし、病状により、長期入院が必要な子供や、退院はしたものの通院や自宅療養が長くなってしまう子供もいます。疾患により症状も様々なので、学習保障についても多様な対応が求められています。

Q1 病気の治療中に学習する必要があるのですか？

病気の治療中であっても子供の成長・発達にとって**学びの機会は必要**です。病室で、学校の先生が来るのを心待ちにしている子供たちがたくさんいます。

子供たちは、病室や教室で授業を受けている時は、「患者さん」から小・中学生に戻ることができます。先生や友達と触れ合ったり、教科書を開いたりすることで、**治療にも意欲的に立ち向かうことができる**ようになります。

レジリエンス

レジリエンスとは、病気の子供が病気などの**困難を乗り越えていく原動力**のことです。その大切な要素の一つとして、「自分のことを気にかけてくれる人がいる」「助けてくれる人がいる」と思えることが挙げられます。

そのためには、教職員が、子供に継続的に声をかけ、**「見ているよ」とサイン**を送ることが大切です。

（「障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省）」より抜粋）

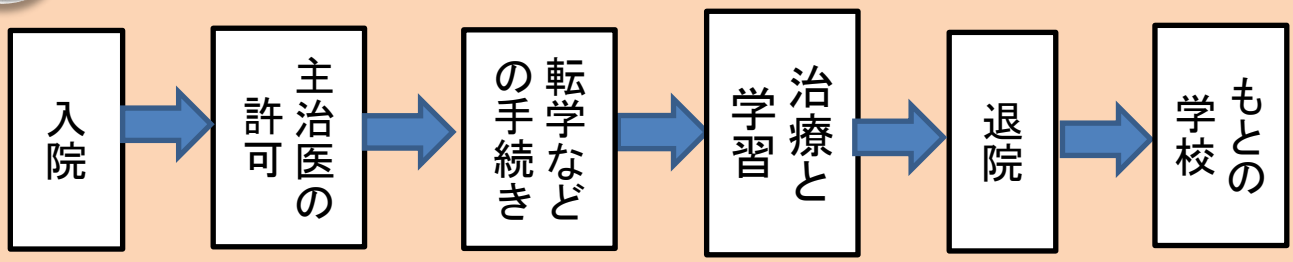
Q2 入院中も学ぶことができますか？

県内の５病院に入院した場合には、主治医の許可を得て、手続きを行うと、設置または併設された学校で学ぶことができます。公立学校ですから授業料はかかりません。

それ以外の病院に入院した場合には、在籍校が学習保障を行います。本人や保護者と相談し、医師や看護師と連携しながら、**入院中も学ぶことができる方法**を考えましょう。担任だけでなく、管理職や養護教諭とともに、学校全体で入院中の子供を支えていきましょう。

他県の病院に入院した場合には、学べる場所があるかどうか、確認して対応する必要があります。

Q3 県内の５病院に入院した場合の手続きの流れは？



大きな流れは変わりませんが、学校によって手続きが異なります。学校に連絡して確認してください。学校との事前の協議が必要な場合もあります。

Q4 転学するのですか？

各学校で学習するためには、**通っている小・中学校から、転学する**ことが原則です。退院したら、もとの学校に戻ります。通院治療が続いたり、自宅で療養したりする場合などには、もとの学校に戻る時期を遅らせることもできます。また、**転学をしないで学習等のサポートが受けられる場合**もあります。各学校の担当者に相談してください。

学習の様子　子供たちや保護者の声

学習の様子（病院内の学校）

子供一人一人の病状に応じて、教室や病室で学習をします。各教科の学習は、入院前の学校の学習進度に合わせて行います。複数の子供が入院している学校では、個別の学習だけでなく、集団の学習も設定されています。音楽会や学園祭などの行事がある学校もあります。

教科の学習

個に応じた指導

病室での学習

ALTとの学習

入院や薬のつらさを忘れて、楽しく過ごすことができた。いつも通り、普通に接してもらえてうれしかった。

学校や学年が違う人がほとんどなのに、みんな仲がいい。
わからないところも、先生にすぐにきくことができて、勉強が追いついた。

入院が長く、勉強が遅れるのが心配だった。先生が優しく教えてくれたのでよかった。心配はいらないと思った。

子供たちの声

病棟では、子供が頑張らなければならないことが多く、自分から話すことが少なくなり心配でした。学校ではよい表情で笑い声も出していて、ほっとしました。病院の中に、全く違う居場所があり、よい時間がおくれていることに、安心しました。

学習面はもちろんですが、何より子供の「心」を支えてくださり、小さな変化も見逃さず、たくさんの励ましをいただきました。おかげさまで長期の入院生活を乗り越えることができました。

同じ立場にある子供同士で話ができて、楽しそうな様子でした。
また、地元の学校の教科書やプリント、ドリルなどを使ってもらえ、戻ってからも大丈夫なように気にかけてくださって助かりました。

保護者の声

「みんなが待っているよ」のメッセージ

学校から離れていても、友達や先生とつながっていることが、入院生活の励みになります。

ある日突然の入院…子供の心は不安でいっぱいです。
体調がすぐれない、治療や検査がつらい、病棟の雰囲気になじめない…発病のショックに加え、入院による環境の変化は子供の心を不安定にしてしまうことがあります。
「自分のことを忘れられてしまうかも」「勉強がわからなくならないかな」など、家族や友達と離れてしまうさびしさや勉強の遅れ、楽しみにしていた行事や部活動などができなくなること、そういう不安を小さくしてくれるのが、学校の友達や先生からのメッセージです。

友達や先生からの手紙やメール、学級だよりなどを子供たちは楽しみにしています。特別なお見舞いでなくても、ごくありふれた学校生活の日常の様子、友達の間で今話題になっていることなど伝えてもらえるのがうれしいようです。
なお、体調が悪くてすぐに返事を出せないのを気にする子や病気の話題に触れてほしくない子もいますから、配慮が必要です。

ICTを使った友達との交流

病院内の学校と、もとの学校とを、インターネットでつないで交流や合同学習をしている様子

医師や看護師も一緒に、保護者、学校の先生と連携して、入院中の子供たちをしっかり支えていきます。
病院に図書を貸し出してくれる、つみき広場やプラネタリウムを開催してくれるなど、子供たちの応援団は大勢います。

山梨大学附属病院
小児科　犬飼岳史　教授

山梨大学　教育学部
小畑文也　教授

※いずれも平成31年時点の所属先

病気が治ってから…、という発想ではなく、治療しながら、仲間とともに学んだり、語り合ったりできることが大切です。ICTを使った学習も有効ですね。
今後も病弱教育が充実していくといいですね。

引用・参考文献　障害のある子供の教育支援の手引（令和3年6月　文部科学省）
病気の子どものガイドブック（平成24年3月　全国特別支援学校病弱教育校長会）
病気の子どもの理解のために（平成20年3月　全国特別支援学校病弱教育校長会）

イラスト　出町書房　かわいいイラスト12ヶ月と楽しいフキダシ

【お問い合わせ先】
■山梨県教育庁　特別支援教育・児童生徒支援課　TEL 055-223-1752

このリーフレットは、文部科学省「入院児童生徒のための教育体制整備充実事業」の受託により作成し、その後改訂したものです。